

平成 24 年 11 月 日

榎野川河口域・干潟自然再生事業に係るアンケート調査

所属 wfen 水環境地域ネットワーク

職・氏名 代表理事 岡谷政宏

電話番号 0834215822 ファックス 0834215822

連絡先 メールアドレス info@wfen.jp

次の各項目について、各委員のご意見をお聞かせください。(答えられる範囲で結構です)

(※)「目標」とは「榎野川河口域・全体自然再生全体構想 (H17 年 3 月)」に示す対象区域毎の設定目標のことをいい、別紙の A3 の表にまとめていますので参照してください。また、同送の『榎野川河口域・干潟自然再生全体構想』、過去にお配りしたニュースレター、協議会資料等、ホームページ <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html> を参照にしてください。

1 豊かな泥干潟区域の再生について

泥干潟区域(中潟)については、多様な生物の生息環境の確保のため、平成17年に干潟回復実証試験(カキ殻の粉碎、耕耘)を実施していますが、目標の達成状況や、事業(整備)の必要性、利活用の方法についてお聞かせください。

- (1) 目標の達成状況について(記号に○、又は具体的な意見等を記載してください。(以下同じ))
- a 目標は達成されていると考えられる。(目指す状態は維持されている)
 - b 目標は一部達成されている。(達成項目 _____、未達成項目 _____)
 - c 目標は達成されていない。
 - d わからない。
 - e その他(資料には底質の変化や生物の生息状態が無かったのでわかりません。)
- (2) 事業の実施について
- a 実証試験結果等を参考とし、さらに造成等の事業(整備)を進める必要がある。
 - b 当面、事業実施の必要はない。
 - c わからない。
 - d その他(前述どおりです。)
- (3) 中潟の今後の利活用について(複数回答可)
- a アサリの採捕等のための漁場
 - b カイガラアマノリの漁場
 - c 潮干狩りの場
 - d 生物の観察場所等
 - e わからない。
 - f その他(_____)

自由意見

漁獲量の減少を挙げておられますが、漁業従事者の減少も有ると思われます。多くの人々を入れることで改善が進むのなら、一部の保全地域を除いてもっと開放すべきかもしれません。

2 豊かな砂干潟区域の再生について

砂干潟については、硬質化又は無機質化した干潟の改善のため、耕耘作業による実証試験を行い、その後毎年、住民参加による耕耘作業やアサリ再生のための被覆網の設置、生物観察などを行っています。目標の達成状況、耕耘作業のあり方等についてお聞かせください。

- (1) 目標達成状況
- a 目標は達成されていると考えられる。(目指す状態は維持されている)
 - b 目標は一部達成されている。(達成項目 _____、未達成項目 _____)
 - c 目標は達成されていない。
 - d わからない。
 - e その他
- (データがみつかりませんでした。)
- (2) 事業の実施について
- a 漁業者を中心にアサリの漁場としての整備が必要
 - b 人力による耕耘作業等による活動を主体とし、漁場の整備までは不要
 - c その他 (_____)
- (3) アサリの増産について
- なりわいとしてアサリを安定的に漁獲できるようにするには、どのような対策が必要と考えられますか。(複数回答可)
- a 漁場の整備
 - b 漁協との連携
 - c 食害生物の駆除
 - d 適切な耕耘作業、被覆網の設置、漁獲(間引き)作業等の実施
 - e 調査研究
 - f その他(なりわいとしてのあさり漁場化には反対です。 _____)
- (4) 干潟^{こうたつ}耕耘作業等イベントの今後の継続について
- a 継続する必要がある。
 - b 継続しなくてもよい。
 - c その他(わかりません。 _____)
- (5) (4)で「継続する必要がある」と答えた理由は何ですか。(複数回答可)
- a 硬質化又は無機質化した干潟の改善のために必要だから。
 - b アサリの再生として効果があるから。
 - c 住民参加型の里海づくりとして効果があるから。
 - d 自然体験学習など環境教育のため効果をあげているから。
 - e 産官学民が一体となった取組となっているから。
 - f 人力作業が主で資金をあまり要しないから。
 - g その他(_____)
- (6) (4)で「継続しなくてもよい」と答えた理由は何ですか。(複数回答可)
- a これまでの実証試験、モニタリング結果等から一定の成果や知見が得られたと考えられるから。
 - b アサリを管理するためには、むしろ被覆網の設置等が有効と考えられるから。
 - c 耕耘など作業自体の実施が目的となっていると思われるから。
 - d 里海づくりとしては、別の取組でも実施できるから。
 - e その他(_____)
- (7) これまでの取組の成果を踏まえ、今後、住民参加の里海の再生を継続・発展していくために、どのような取組が考えられますか。
- a 漁場としての整備、アサリ増産及び継続的な出荷
 - b 潮干狩り場としての整備
 - c 自然体験学習
 - d その他(_____)

自由意見

耕耘で改善すると考えるならば、豊かな泥干潟と同様
より多くの人々が恒常的に立ち入ることが出来る環境にすれば改善が進むと考えます。

3 カブトガニ産卵場保全区域の保全について

カブトガニ産卵場保全区域については、毎年、一般応募者を募り幼生生息調査を実施していますが、その目標達成状況、調査の継続等についてお聞かせください。

(1) 目標達成状況について

- a 目標は達成されていると考えられる。(自指す状態は維持されている)
- b 目標は一部達成されている。(達成項目 _____、未達成項目 _____)
- c 目標は達成されていない。
- d わからない。
- e その他 (_____)

(2) 幼生生息調査の今後の継続について

- a 継続する必要がある。
- b 継続しなくてもよい。
- c その他 (_____)

(3) (2) で「継続する必要がある」と答えた理由は何ですか。(複数回答可)

- a 希少な野生生物だから。
- b 調査期間が短く、さらに追跡する必要があるから。
- c 環境教育、環境学習のためにも有効だから。
- d その他 (意識を高く保つためにも必要だと思います。 _____)

(4) (2) で「継続しなくてもよい」と答えた理由は何ですか。(複数回答可)

- a 砂干潟区域の保全が維持されていると考えられるから。
- b ある程度データが集積されたと考えられるから
- c ほかにも生物がいるから。
- d 調査が大変だから。
- e その他 (_____)

(5) 幼生生息調査の課題等について (複数回答可) ?

- a 調査方法
- b 参加者数の確保
- c 調査結果の評価、活用方法
- d 産卵場の調査の要否
- e その他 (_____)

自由意見

:継続して記録することが大切だと考えます。

4 豊かなアマモ場・浅場区域の再生について

アマモ場については、平成14年から20年まで種の採取、播種^{はしほ}を行うなど回復事業を実施し、毎年のモニタリング調査の結果からもかなりの回復が認められていますが、目標の達成状況、今後の回復措置の必要性等についてお聞かせください。

(1) アマモ場の目標達成状況について

- a 目標は達成されていると考えられる。
- b 目標は一部達成されている。(達成項目 保全・参加、未達成項目生息域の拡大)
- c 目標は達成されていない。
- d わからない。
- e その他 (_____)

(2) アマモ場の拡大について (複数回答可)

- a 特に事業等は必要がない。
- b アマモ場の維持状況についてモニタリングの継続が必要
- c 現在の回復状況は不十分であり、さらに移植、播種^{はしほ}等を実施し、拡大を図るべき
- d 現在の回復状況は不十分であり、将来、アマモ場の造成工事を行うべき
- e その他 (アマモ場の拡大には実験的な攪乱もアリかもしれません。 _____)

(台風を待つ??)

(3) 親水性の確保について

- a 十分である。(利用がしやすい)
- b 十分とは言えない。
- c わからない。
- d その他 ()

自由意見

前述したように、人々の干渉の減少が環境悪化につながっているかもしれません。

5 豊かな泥浜・レク干潟区域について

泥浜の環境改善(適度の砂質化)やレクリエーションの場の確保については、砂の確保や、予算の問題もあり、未着手となっていますが、今後、どのような取組が必要と考えますか。

- a 現状や必要性を含め、引き続き取組の可能性を検討する。
- b 直ちに取組むことができないものは、諸事情も考慮し、検討を当面保留する。
- c 検討しなくてもよい。
- d わからない。
- e その他

自由意見

適度が何を指すのかわかりません。

自然の変化を止める行為には反対です。

6 豊かな後浜(背後地)区域について

豊かな後浜(背後地)区域は5と同様に事業が未着手となっていますが、今後の取組についてどう考えますか。

- a 現状や必要性を含め、引き続き取組の可能性を検討する。
- b 直ちに取組むことができないものは、諸事情も考慮し、検討を当面保留する。
- c 検討しなくてもよい。
- d わからない。
- e その他

自由意見

人々の意識の共有は必要だと思います。

○ 以下は、自然再生協議会のあり方等の協議会全般に関する質問です。可能な範囲でお答えください。

7 調査研究について

調査研究に関し、今後どういう分野の研究が必要と考えられますか。またその体制はどうすべきと考えますか。

(1) 研究分野について(複数回答可)

- a 水産関係
- b 水質保全関係
- c 干潟、アマモ場の再生など
- d 生物関係(水産分野を除く。)
- e 特に必要がない。
- f その他 ()

(2) 研究体制について(複数回答可)

- a 学術研究機関で独自に調査研究
- b 学術研究機関が当協議会との連携において調査研究し再生事業に反映
- c 当協議会で予算措置し、調査研究、事業化を図る。
- d 現状のまま
- e その他 ()

自由意見

定量的な報告を期待しがちですが

定性的な長期間の変化を記録・報告して欲しいです。

8 自然再生協議会の活動等について
協議会全般の活動のあり方等についてどのように考えますか。

(1) 活動の継続等について

- a 現状のまま協議会活動を継続
- b 活動回数、内容を見直して継続（会議開催回数、時期、会議以外の活動内容等）
 - ・活動回数の見直し（ 回／年程度 ※現状：年2回）
 - ・活動内容の見直し（ ）
- c 活動を終了
（理由等： ）
- d その他（ ）

自由意見

9 樫野川河口域（上・中流域を含む）の取組成果の他地域への波及について

- a 他地域へ波及させ、県内の流域づくりを発展させるべき
流域（河川）名（ ）
（理由： ）
- b 当分の間、この流域を重点的に実施していくべき
- c 波及させる必要はない。
- d わからない。
- e その他（他地域からも参加を増やす。 ）

自由意見

10 その他

(1) 自然環境学習について（学習内容、実施対象、回数、時期など）

〔 単発的なイベントに終わらないカタチを期待します。 〕

(2) 情報管理について（情報の提供・共有、情報の発信方法等）

〔 FacebookやTwitterなどのSNSの特徴をよく把握した上で利用する。 〕

(3) 里海の再生（里海づくり）について

〔 海は一部の人々の為だけにアルわけではありません。 〕

都市部や遠方の居住者も気軽にアプローチできる里海になってほしいです。

(4) 各委員で、主体又は協力として、どのようなことに取り組むことができますか。

例：個人委員：ボランティア活動への参加

団体委員：民間助成金を活用した干潟の再生活動の実施

地方公共団体：大規模事業に係る他部局との連携 等

〔 興味を持っている人を巻き込むこと 〕

自由意見

たとえ近くに住んでいなくても行ってみたい。

たとえ年に一度でも、気軽に訪れ 受け入れる海ができれば素敵です。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

回答については、返信用封筒にて返送するか、メールにて御返送ください。

（事務局）〒753-8501 山口市滝町1-1 山口県自然保護課 元永あて

E-mail motonaga.naotaka@pref.yamaguchi.lg.jp tel 083-933-3060 fax 083-933-3069